



海老名市コミュニティバス・
YouBus（海老名市HPより）

利用しやすいコミバス（コミュニティバス）

今夏の猛暑に「コミバス上今泉コース始発バス停に屋根とベンチを」の声が上がり、利用者の話し合いの場をもちました。「こうなったら利用しやすい」と思われる点が多々でてきました。「コミバス市民の会」を立ち上げ、アンケートを取り市民の声を市へ届けました。

10月1ヶ月間に聞き取り方式で82名の回答を得ました。多くは70代・80代で、利用頻度は週3・4回25人、週1・2回26人で回答者の7割は上今泉コース、3割は国分コースの利用でした。元気なシニア世代のおでかけの足となっていることが分かりました。改良点（複数可）は「混雑時間帯に増便する」54人と「始発バス停を風雨や日光を防げるようにする」49人が多く、この点を主に、11/21(木)市役所でコミバス市民の会（7人）と市（都市計画課交通政策係2人と福祉政策課1人）と話し合いの場を持ちました。

ドアが締められずに奥へ詰めるように繰り返しアナウンスされるほど混雑し、坂が多く急ブレーキには危険も伴い、次を待つには1時間以上になる事を考え混雑時間帯の増便

を提案しました。「増便はできない」と市の回答。大きな課題は働き方改革による運転手不足。バスはあっても動かす人がいないことは頷けます。「定員は28人、それ以上乗車させるかは、運転手に任せている」との回答は事業者としての責任回避ではないでしょうか？ 安全第一を考え、運行の見直しは必要です。

文化会館に向かう広い歩道に上今泉コースの始発バス停があります。屋根のある場所への移設も含めた提案に「数百万円かかり、屋根とベンチは設置できない。」「図書館・福祉会館などの文化ゾーンの見直し、You Bus実証運行を踏まえ、公共交通の全体で長期的な見地で考える。」との回答です。地球温暖化で来夏も猛暑予報、改善できるところは対策をとるべきです。

人とつながる外出の足となっているコミバスです。フレイル予防に、免許証返納の推進にも、市民に寄り添ったコミバス施策が必要です。様々な立場の市民と行政による市民共同で交通政策となるように、公共交通市民会議の設置が望まれます。
(西田)

学習会 報告

使える介護保険へ

11月14日小竹雅子さん(市民福祉情報オフィス・ハスカップ主宰)による学習会を開催しました。

経緯 日本は2018年全都道府県が高齢化率21%を超え、5人に1人が65歳以上の超高齢社会に突入しました。2025年団塊の世代がすべて後期高齢者（75才）になります。

介護保険制度は高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みとして、2000年からスタートし3年ごと制度の改定がされてきました。介護保険の認定は、要支援1・2と要介護1～5まであり数字が大きいほど支援や介護がより必要となります。

当初の介護保険制度は、介護認定者が介護保険の支援の対象者として1割負担で家事介護やデイサービスなどが受けられる制度でした。

現状 しかし現在は介護認定者の要支援1・2の人は、市区町村の地域支援事業の対象者として介護予防サービスになります。地域支援事業サービスの内容は、市区町村ごとに

財源や施策により違いがあります。

今後 更に2027年制度改定では、①介護認定者の要介護1・2（認知症も混在）の人も、市区町村の地域支援事業の対象者となり介護予防サービスへ、②現在の原則1割負担から原則2割負担へ、③ケアプランの有料化などが検討されています。

高い介護保険料を支払っても、介護サービスが受けづらい、受けられない制度への改定となることが危惧されます。

高齢者の介護を「社会全体で支え合う」目的が「家族の介護に頼る」方向に向かっているとしか考えられず、何のための介護保険制度でしょうか？

全国で介護や看護のための離職者は11万人（2022年総務省）に及んでいます。労働人口不足への更なる影響や介護虐待など深刻な社会問題です。また離職者は老後の年金受給額の減少に繋がり深刻です。団塊の世代が後期高齢者となり、今後益々介護保険制度の充実が必要な時です。税金の投入を大幅に増やし、誰もが安心して地域で暮らしていける介護保険制度の充実を求めています。（斉藤）



長崎被爆者『語り部 豊敦子さん』の物語を上演

12月1日海老名市文化会館120サロンで第17回目の平和の集い（「市民発・平和の会」・「生活クラブ海老名 commons」共催）を開催した。

戦争体験を直接話せる人が少なくなった今、体験を次世代、次々世代へどのように引き継いでいくかが大きな課題だ。世界では、未だ子どもたちが戦禍の中にあり、国と国、大人たちの利害の犠牲者となって未来あるはずの小さな命が消えている。現在、日本の若者たちの中には、広島・長崎の原子爆弾によって、どれだけの人々が死にどれだけ

苦しみの人生を知らない、関心を持たない人たちが増えている。日本の近現代史に力を入れない国の教育政策、人権を大切にすることに力を入れない教育にも大きな問題があると思う。

私たちは、海老名在住の長崎原爆被災者の豊敦子さんと巡り会い、4回体験談を聞いた。4歳で被爆。父と妹を亡くし母と5人の姉妹たちと辛酸を舐める生活の中から美容師となり自立。合格しても行くことが出来なかった高校に40代に進学。その人生を女優高安智実さんが脚本を書き、豊さん役を演じた。ピアノは、樋渡知恵さんが担当。優しかっ

た亡父との再会シーンは、大きな感動を呼んだ。豊敦子さんの物語を各地で上演したい。

核は、地球上から無くさなければならぬ。日本は、その先導役を果たすべきだ。ノーベル平和賞を被団協が受けた。真の目的は、核廃絶だ。（三谷裕美子）



向かって左から
高安さん、
豊さん、
樋渡さん

衆議院選挙の結果から

10/27(日)投開票の衆議院総選挙は、自民党・公明党の連立政権が過半数割れとなる歴史的大敗となりました。

自民党一強が崩れ、与野党が伯仲となった国会、熟議の民主主義政治がおこなわれることを期待します。国会に議案を提出する前に、党利党略で事前協議をするのではなく、様々な角度から国会審議が十分になされて国民に開かれた国会運営となるよう私達は主権者として注視しています。

この30年間のほとんどは、自民党政権が担っていました。30年間平均賃金が増えない（G7各国で最下位）異例の状況が続いています。5年間で43兆円の巨額な防衛予算は、国会審議を経ず閣議決定しています。また企業・団体献金は、企業や団体に有利な政策に繋がっています。「法人税の軽減税率」や「労働者派遣法の改正」により、正規雇用を削減し非正規雇用の拡大を進めたため、所得格差が拡がり貧困層が増え未婚による少子化にも影響を及ぼしています。下請けの中小企業が疲弊する中、大企業は更なる内部留保に繋がり問題となっています。

「巨額な防衛予算」の見直しや「企業・団体献金」を廃止して「子育て」や「介護」、「正規雇用の拡大」など国民の暮らしの安定化にこそ税金を手厚くする政治を望みます。（斉藤）



海老名ネットは市の予算編成に際し、毎年予算提案書を提出してきました。企画段階から市民と協働で市民生活優先の市政を進めていくという観点から市のまちづくりに様々な提案をしています。

今年は10月7日に提案書を窓口となる市民相談室に届け、各部署からの文書回答を求めると同時に、直接の話し合いをしたい事も伝えました。

内容は、「市民参画」「男女共同参画」「環境」「地域福祉」「子どもの人権」「減災」「平和」「脱原発」等多岐にわたります。日ごろ活動している共生部会、環境部会、平和部会、運営委員会などのメンバーが文章を作成しました。

対象部署は市民協働部、経済環境部、まちづくり部、市長室、企画財政部、保健福祉部、教育部です。きれいな水田や広々とした遠くが見える海老名駅周辺は、どこにでもある高層マンションが林立する空が小さくなった「まち」になっています。これからも私たちが望む海老名の姿は何なのかを考えていきます。（高林）

編集後記 毎日の暮らしは、政治に直結していることから1990年9月25日に神奈川ネットワーク運動海老名が設立しました。翌年最初の議員を誕生させ、その後5名の議員が市議会において、市民の声が反映されるまちづくりを目指してきました。まちレポ第1号の1992年1月発行からは時代や暮らしが大きく変わり生活の課題も多種多様ですが、今号の129号を持ちまして最終とさせていただきます。参考となる記事がありましたら幸いです。ありがとうございました。（斉藤）

*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。